

子規句碑所在一覽

- 1 正岡子規記念球場** (上野公園内) ●台東区上野公園5-20  
JR上野駅下車。公園口を出て上野動物園方面に進み、東京文化会館先を左折し、徒歩1分。野球場東側。

**2 五條天神社** (上野公園内) ●台東区上野公園4-17  
JR上野駅下車。公園口を出て上野精養軒方面に進み、突き当り鶴松亭左隣り。徒歩5分。

**3 下谷神社** (寄席発祥の地) ●台東区東上野3-29-8  
JR上野駅下車。正面より浅草通りを浅草方面へ徒歩5分右側。又は東京メトロ銀座線「福荷町駅」下車、上野駅方面へ徒歩2分左側。

**4 入谷鬼子母神** (入谷朝顔市) ●台東区下谷1-12-16  
JR鶯谷駅下車。南北口より跨線橋を下り突き当りの言問通りを右折。次の信号を渡り右側100m程、徒歩6分。又は東京メトロ日比谷線「入谷駅」下車。言問通りを鶯谷駅方面へ左側1分。

**5 元三島神社** ●台東区根岸1-7-11  
JR鶯谷駅下車。北口改札口を出て直ぐ右手の寿司屋の横を入ると直ぐ。徒歩1分。

**6 笹乃雪** (豆腐料理) ●台東区根岸2-15-10  
JR鶯谷駅下車。北口を出て言問通りを渡り直進する左側に「笹乃雪」がある。徒歩約3分。

**7 子規庵** (子規旧居) ●台東区根岸2-5-11  
JR鶯谷駅北口下車。言問通りを渡り直進。「笹乃雪」に沿い左折。駐車場先を突き当り左折、直ぐ先を右折左側。徒歩約5分。

**8 羽二重団子** (芋坂) ●荒川区東日暮里5-54-3  
JR日暮里駅下車。南口を出て右方向へ。約300m程行くと右側に「羽二重団子」がある。徒歩約4分。

**9 根岸の里** (根岸小学校入口) ●台東区根岸3-9-8  
JR鶯谷駅下車。北口を出て言問通りを渡り直進。約50m程行った右側。根岸小学校入口横。徒歩約3分。

**10 御行の松不動尊** ●台東区根岸4-9-5  
JR鶯谷駅下車。南口を出て左、跨線橋を下ると言問通りに出る。通りを渡り右折、左側に要伝寺。そこを左折し直進約300m。右側にある。徒歩約8分。

**11 驚神社** (酉の市) ●台東区千束3-18-7  
東京メトロ日比谷線「三ノ輪駅」下車。上野寄り改札口より国際通りへ出る。浅草方面へ直進左側。徒歩約10分。

**12 山谷堀公園** (吉原への船路) ●台東区東浅草1-4-2  
松屋前から都バス南千住行に乗り「今戸」下車。東浅草1丁目信号を左折、山谷堀橋を右折して直ぐ。バス停より5分。

**13 隅田公園** (竹屋の渡し) ●台東区浅草7-1(待乳山聖天斜向)  
東京メトロ銀座線又は都営浅草線、東武伊勢崎線「浅草駅」下車。松屋と隅田川の間の道を橋方面に向う。言問通りを越え約300m先左側。徒歩約15分。

**14 浅草寺** (浅草観音) ●台東区浅草2-3-18  
東京メトロ銀座線又は都営浅草線、東武伊勢崎線「浅草駅」下車。浅草寺本堂の左奥五重塔の先の堀の中。徒歩約8分。

**15 子規短歌碑** (駒形橋西詰)  
東京メトロ銀座線又は都営浅草線、東武伊勢崎線「浅草駅」下車。江戸通りを浅草橋方面へ徒歩約5分。

## 正岡子規について

正岡子規が陸羯南(くがつかなん)の世話で東京下谷上根岸88番地(南の隣)に越して来たのは、明治25年2月のことでした。子規はこの前、大学を中退して俳句研究に専念することを羯南に告げています。子規が山から上京したおり、羯南は洋行前の親友・加藤柘右軒から「甥をよろしく頼」と子規を託していました。以来、子規とは10年近くの親交を結んでいました。はじめ、大学をやめることについて反対した羯南は、やがてその熱心な搖るぎない子規の態度に理解をしめしました。そして、病弱な子規の身の気づかい、家族との同居をすすめます。11月、松山から母と妹を呼び寄せ、母子三人、根岸での生活が始まりました。

12月、子規は福南の経営する日本新聞社に入社しました。新聞「日本」には、入社前から、俳論、紀行文などを連載していました。翌年、奥羽方面を旅したときの紀行文「はてしらずの記」もこの「日本」に連載されました。

明治27年2月、絵入り新聞「小日本」の編集責任者に抜擢された子規。これを機に一家で福岡の東隣上根岸82番地（現在の子規庵所在地・根岸2-5-11）に移りました。「小日本」は半年ばかりで廃刊しましたが、子規はのとき挿絵を描いた中村不折に出会い、後に写生についての大きな示唆を受けています。

新聞「日本」に復帰した子規は明治28年4月、周囲の反対を押し切って日清戦争の従軍記者として大陸に渡ります。無理がたたって、帰国途次船中で喀血するなど子規の身体は急激に衰えていました。明治29年に脊椎カリスを告知され病床に臥すようになりました。記者として各地を取ることはできなくなってしまいましたが、「日本」を発表の場にして子規は力的に書き続けました。この年の隨筆「松蘿玉液」には、学生時代に熱中していたベースボールについての記述があります。野球という訳語はまだありませんでしたが、子規は自分の名をもじって、野球(ノボール)とルビをふり、友人の手紙に記しています。投者(ピッチャー)、擾者(キャッチャー)、打者(ストライカー)、走者(ランナー)、正球(エアボール)、飛球(フライボール)、満基(フルベース)、廻了(ホームイン)などは子規の翻訳なのです。





其の九



根岸 子規庵

子規庵は、旧前田侯の下屋敷の御家人用二軒長屋といわれて  
借家として子規没後も子規庵には母と妹が居住していました。前田家  
子規庵維持保存会が土地建物を購入後、老朽化と関東大震災の  
により昭和元年に解体重修工事を行いましたが、昭和20年4月14日  
襲により子規庵は焼失、幸い昭和2年に完成了土蔵（子規文庫）は  
貴重な遺品が後世に残されました。現在の子規庵は昭和25年、高弟  
努力で再建され、昭和27年東京都文化史蹟、昭和35年東京都文  
に指定されています。現在は、昭和3年に子規庵維持保存会が財團法  
人子規庵保存会としての認可を受け、維持保存と公開運営をしています。

財団法人 子規庵保存会  
東京都台東区根岸2-5-11 TEL.03-3876-8211  
● 公開日／月曜日を除く毎日（夏季・冬季休館あり）  
●公開時間／午前10時30分～午後4時（夏季休館あり）  
●イベント／5月「若葉の季」、9月「糸瓜展」  
11月「東京文化財ウイーク」、12月「

西園子辯ゆかりの地(白壁)を訪れる

# 台東ぶらり散歩

交通アクセス



発行 台東区観光課 TEL.03-5246-1111(代表)  
〒110-8615 東京都台東区東上野4-5-6

<http://www.city.taito.tokyo.jp>

R100  
古紙配合率100%再生紙を使用しています